

IBM SPSS Amos 許可ユーザー・ライセンス
管理者ガイド



目次

第 1 章管理者ガイド	1
開始する前に.....	1
ゴースト化.....	1
Citrix およびターミナル・サービス.....	1
ローカル・デスクトップ・コンピューターでの製品のインストール.....	1
Windows コンピューターへのインストールのプッシュ.....	2
licenseactivator の使用.....	5
ライセンス・ファイル.....	6
サービスとサポート.....	6

第 1 章 管理者ガイド

以下の説明は、許可ユーザー・ライセンス IBM®SPSS® Amos のライセンス・タイプ 32 を使用しているサイトの管理者向けです。このライセンスを使用すると、ライセンスを購入した数に限り IBMSPSS Amos を複数のコンピューターにインストールすることができます。

開始する前に

認証コードが必要です。認証コードにより、管理者とエンド・ユーザーは、のライセンスを取得できるようになります。

認証コードの取得方法に関する別個の指示を受け取っていると思います。認証コードが見つからない場合は、にアクセスして、カスタマー・サービスに連絡してください。

ゴースト化

ソフトウェアをゴーストするには、以下のいずれかを選択し、ライセンスに準拠させます：

- 同時使用ライセンスに移行するか、正規ユーザーライセンスを使用しますが、ゴーストイメージのソフトウェアのライセンスは取得しないでください。
 - または
- 各ユーザーのコンピューターにソフトウェアをライセンスする。

ソフトウェアのゴースト化を選択した場合、上記 2 つの推奨方法のいずれかを使用しないときは、ライセンスへの準拠を維持していくことが非常に難しくなります。ライセンスへの準拠の維持についてのご質問は、IBM 会社にお問い合わせください。

Citrix およびターミナル・サービス

Citrix およびターミナル・サービスでを使用するには、コンカレント・ライセンスが必要です。ライセンスの移行については IBM 会社にお問い合わせください。

ローカル・デスクトップ・コンピューターでの製品のインストール

製品をローカルにインストールするには、2 つの方法があります。各コンピューターに手でインストールすることもできますし、SMS (Systems Management Server) のようなアプリケーションを使って、Windows 上で動作するコンピューターにインストールをプッシュすることもできます。

ローカル・デスクトップでの手動インストール

1. **インストールメディアを用意する。** 製品の eImage をダウンロードし、共有ネットワーク・ドライブにファイルを解凍します。iso インストールメディアをダウンロードした場合は、それを使って必要なだけコピーを作成するか、コンテンツを共有ネットワークドライブに解凍してください。
2. **インストール手順書をコピーし、ライセンスに関する情報を準備します。** 製品のインストール手順書のコピーを必要な数だけ作成します。インストール手順はダウンロードサイトまたは、または抽出した ISO ファイルから入手できます。ディレクトリの ISO ファイル。ご使用のライセンス・タイプに対応する指示書を探します。インストール後、サイトのの認証コードを入力します。コピーする前に、説明書の冒頭にある空欄にこの情報を記入してください。

注: プロキシ・サーバーによって認証が妨げられる場合は、*licenseactivator* の使用を検討してください。これによって、プロキシ ID とパスワードを入力できます。詳しくは、トピック「[5 ページの『licenseactivator の使用』](#)」を参照してください。

3. **インストールに必要なものをエンド・ユーザーに配布します。** ダウンロードしたファイル(ダウンロードしたインストーラ実行ファイル、またはインストーラ ISO ファイル)、インストール手順、およびラ

イセンス情報をエンドユーザーに配布し、必要に応じて各コンピュータに手動でインストールしてもらう。

Windows が稼働しているローカル・デスクトップへのプッシュ

IBMSPSS Amos のインストールは Microsoft Windows インストーラー (MSI) との互換性があるため、エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピュータにインストールをプッシュできます。

Windows コンピューターへのインストールのプッシュ

インストールのプッシュとは、ソフトウェアを任意の人数のエンド・ユーザーに、ユーザーの介入なしにリモートで配布する手法です。 の完全インストールをエンド・ユーザーの Windows が稼働するデスクトップ・コンピュータにプッシュできます。 インストールのプッシュに使用するテクノロジーでは、MSI エンジン 3.0 以上がサポートされている必要があります。

前のバージョンの上書き

前のバージョンの がインストールされているのと同じディレクトリーにプッシュする場合、インストーラーは既存のインストール環境を上書きします。 オプションで、インストールのプッシュ時にアンインストールをプッシュできます。 詳しくは、トピック「[5 ページの『アンインストールのプッシュ』](#)」を参照してください。

プッシュ・インストールのプロパティ

プッシュ・インストールに使用できるプロパティには、以下のものがあります。 すべてのプロパティで大文字と小文字が区別されます。 値に空白文字が含まれている場合は、その値を引用符で囲む必要があります。

プロパティ	説明	有効値	デフォルト (該当する場合)
INSTALLDIR	IBMSPSS Amos のインストール先となる、エンド・ユーザーのデスクトップ・コンピュータ上のディレクトリー。 このプロパティはオプションです。 このプロパティを指定しなかった場合のデフォルトは <code>StatisticsC:\Program Files\ IBM \ SPSS \AMOS\</code> です。	C:\Amos などの有効なパス。	StatisticsC:\Program Files\ IBM \ SPSS \AMOS\
AUTHCODE	認証コード。 このプロパティを指定した場合、認証コードを使用して製品が自動的に認証されます。 このプロパティを指定しなかった場合、各エンド・ユーザーがライセンス認証ウィザードを実行して、手動で認証を行う必要があります。	1つ以上の有効な認証コード。 複数の認証コードを指定する場合は、コロンで区切ります (例: <code>authcode1:authcode2</code>)。	

表 1. プッシュ・インストールのプロパティ (続き)

プロパティ	説明	有効値	デフォルト (該当する場合)
PROXY_USERID	プロキシのユーザー ID。AUTHCODE パラメーターを指定し、インターネットへの接続でユーザー ID とパスワードが必要なプロキシを現在のサイトで使用している場合は、このパラメーターを指定する必要があります。コントロール・パネルの「インターネットオプション」の「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」で、特定のプロキシ・サーバーのアドレスとポートが指定されている場合のみ、このパラメーターが機能します。	有効なプロキシ・ユーザー ID。	
PROXY_PASSWORD	プロキシ・ユーザーのパスワード。詳細については、PROXY_USERID の説明を参照してください。	プロキシ・ユーザー ID に関連付けられたパスワード。	
ENABLE_CONNECTIONS	インターネット接続機能 (情報共有、エラー・レポート、およびウェルカム画面の更新) を有効または無効にします。	YES または NO	

MSI ファイル

IBM SPSS 統計 .msi ファイルの保存場所は、ダウンロードしたファイルの種類によって異なります。

- ISO ファイル (例えば、SPSSSC_version_MWISO.iso) をダウンロードした場合、IBM SPSS 統計 .msi ファイルは解凍後、以下の場所にあります: <drive letter>:\Windows\SPSSStatistics\win64
- インストーラの実行ファイル (例えば、ISSCAS30_0.0_MW_ML.exe) をダウンロードした場合、IBM SPSS 統計 .msi ファイルの場所は、コンテンツを解凍した場所に依存します。抽出場所へ移動し、*.msi ファイルを見つける。

コマンド・ラインの例

製品のインストールのプッシュに使用できるコマンド・ラインの例を以下に示します。すべてのテキストを 1 行で入力してください。

```
MsiExec.exe /i "IBM SPSS Statistics.msi" /qn /L*v logfile.txt
INSTALLDIR="C:\Amos" AUTHCODE="3241a2314b23c4d5f6ea"
```

SMS を使用したインストールのプッシュ

Systems Management Servers (SMS) を使用してをプッシュする際の基本的な手順を以下に示します。

1. 本ソフトウェアをダウンロードしたら、まず eImage の内容を解凍してから、Windows\Amos ディレクトリーの下に該当するサブディレクトリーを、ネットワーク・コンピューター上のディレクトリーにコピーする必要があります。
2. コピーしたディレクトリーにある .sms ファイルを編集します。テキスト・エディターを使用して適切なプロパティーを追加することにより、CommandLine の値を変更してください。使用可能なプロパティーのリストについては、2 ページの『プッシュ・インストールのプロパティー』を参照してください。コマンド・ラインで適切な MSI ファイルを指定してください。
3. .sms ファイルからパッケージを作成し、そのパッケージをエンド・ユーザーのデスクトップ・マシンに配布します。

グループ・ポリシーまたは関連技術を使用したインストールのプッシュ

1. ソフトウェアをダウンロードしたら、まず eImage のコンテンツを解凍し、Windows\Amos ディレクトリーの下位にある該当するサブディレクトリーを、ネットワーク・コンピューター上のディレクトリーにコピーします。
2. ORCA などのアプリケーションを使用して、コピーしたフォルダー配下の適切な IBM スポス アモス 32 .msi ファイルでプロパティー・テーブルを編集します。ORCA は、Windows 2003 Server SDK に付属しています。http://www.microsoft.com/downloads にアクセスして、「SDK」で検索してください。プロパティー・テーブルに追加できるプロパティーのリストについては、2 ページの『プッシュ・インストールのプロパティー』を参照してください。必ず、正しい MSI ファイルを使用してください。
3. 編集済みの IBM スポス アモス 32 .msi ファイルを使用してパッケージを作成し、このパッケージをエンド・ユーザーのデスクトップ・コンピューターに配布します。

英語以外のシステムにインストールをプッシュする

追加の指定をすることなく、英語以外のシステムにインストールをプッシュすることができます。ただし、インストーラーの言語 (対話インストールをプッシュする場合)、ユーザー・インターフェース、ヘルプはすべて英語で表示されます。ユーザーは、インストール後にユーザー・インターフェースの言語を変更できますが、ローカライズされたヘルプは使用できません。

TRANSFORMS プロパティを使用して、ISO ファイルまたはダウンロードした eImage で利用可能な MST ファイルの 1 つを指定できます。MST ファイルを使用すると、インストーラー、ユーザー・インターフェース、ヘルプを、指定の言語で表示することができます。IBMSPSS Amos をダウンロードした場合、MST ファイルは使用できません。その場合ユーザーは、ローカライズされたヘルプの言語パックを手動でインストールし、製品のユーザー・インターフェース言語を手動で変更する必要があります。

TRANSFORMS プロパティーは MsiExec.exe のパラメーターです。以下の例では、TRANSFORMS プロパティーを使用して、フランス語のインストールをプッシュしています。この場合、インストーラーとユーザー・インターフェースがフランス語で表示され、フランス語のヘルプがインストールされます (ヘルプの言語を HELPCHOICE プロパティーでオーバーライドすることもできます。詳しくは、2 ページの『プッシュ・インストールのプロパティー』のトピックを参照してください。) すべてのテキストを 1 行で入力してください。

```
MsiExec.exe /i "IBM スポス アモス 32 .msi" /qn /L*v logfile.txt
INSTALLDIR="C:\Amos" LSHOST="mylicserver" TRANSFORMS=1036.mst
```

ISO ファイルの Windows\Amos ディレクトリーに次の言語 MST ファイルがあります。eImage をダウンロードした場合、これらのファイルは抽出された eImage ファイルのルート・ディレクトリーに格納されています。

表 2. 言語用 MST ファイル	
言語	MST ファイル
英語	1033.mst
日本語	1041.mst

アンインストールのプッシュ

注: アンインストール・コマンドをプッシュすると、エンド・ユーザーがカスタマイズした設定は失われます。特定のユーザーについてカスタマイズが必要な場合は、それらのユーザーを配布対象から除外して、製品を手動でインストールするように依頼してください。

新しいバージョンの IBMSPSS Amos のインストールをプッシュする場合、最初にアンインストールを行うことをお勧めします。これをサイレントに行うには、解凍した eImage ファイルに含まれる `push_uninstall.bat` ファイルを使用します。

次の表に、これまでのリリースのアンインストール ID をリストします。

バージョン	アンインストール ID
28.*	{5643F9D3-6B6B-439A-A8D1-66C0D363B553}
27.*	{5714B6D0-2C14-49BB-B560-25CB36AE2AF3}
26.*	{C31442F6-4B76-4022-9822-7F60F3EA70D8}
25.*	{28C51A52-9B61-4589-91DE-8C5FAEA00B10}
24.*	{A24026D3-0E0B-49F1-8FC8-65E254EB421F}
23.*	{2B603859-DCA2-45DD-92DF-98542E78BAA8}
22.*	{DEB57287-C937-4DE9-939A-5ED3AB8F052D}
21.*	{304B71E3-1017-4717-86BC-F1D18519FEF2}
20.*	{58C50F5A-B7E2-4149-8911-B14CEC825F57}
19.*	{B132EFD2-BF03-48AA-8EC8-404E4C5199C5}
18.*	{65D9DA69-4C22-46CA-B762-A338CAC94599}
17.*	{9DB2E18E-2A1F-4D65-A258-9CB446903C3E}
16.*	{4DA782CB-C9A0-462F-9D18-17D301BC507C}

licenseactivator の使用

`licenseactivator` を使用すると、ライセンス認証ウィザードを使用しなくても、エンド・ユーザーのコンピューターを認証することができます。このコマンド・ライン・ツールは、IBMSPSS Amos をインストールしたディレクトリーにあります。

`licenseactivator` を使用すると、商品のライセンスが交付され、`licenseactivator` のディレクトリーにログ・ファイルが書き込まれます。このログ・ファイルの名前は、`licenseactivator_<month>_<day>_<year>.log` になります。エラーが発生した場合は、このログ・ファイルを参照して詳細な情報を調べることができます。IBM 会社にサポートを依頼する場合にも、この情報が役に立ちます。

認証コードでの `licenseactivator` の使用

`licenseactivator` は、通常、製品の購入時に受け取った 1 つ以上の認証コードとともに使用します。すべてのテキストを 1 行で入力してください。

```
licenseactivator authcode1[:authcode2:...:authcodeN] [PROXYHOST=proxy-hostname] [PROXYPORT=proxy-port-number]
[PROXYUSER=proxy-userid] [PROXYPASS=proxy-password]
```

注: macOS で作業するときは、`./licenseactivator` を使用します。

- 複数の認証コードを指定する場合は、コロン (:) で区切ります。

- プロキシ設定は任意ですが、プロキシ経由でコンピューターを使用している場合は、プロキシ設定が必要になることがあります。必要なプロキシ設定は、固有のプロキシ構成によって異なります。すべてのプロキシ設定が必要になることがあります。

PROXYHOST

プロキシ・ホストのサーバー名または IP アドレス

PROXYPORT

プロキシ経由でインターネットに接続するためのポート番号

PROXYUSER

プロキシのユーザー ID (必要な場合)

PROXYPASS

ユーザー ID に関連付けられたパスワード (必要な場合)

ライセンス・コードでの `licenseactivator` の使用

あまり多くはありませんが、IBM 会社からライセンスが送付されることがあります。

```
licenseactivator licensecode[:licensecode2:...:licensecodeN]
```

注: 使用 `./licenseactivator` when working with macOS.

- 複数のライセンス・コードを指定する場合は、コロン (:) で区切ります。
- ライセンス・コードを使用する場合、`licenseactivator` はインターネットには接続しないため、プロキシ情報を指定する必要はありません。

macOS 固有の `licenseactivator` 機能

macOS システムでの `licenseactivator` の実行に固有の機能と設定は次のとおりです。

ネットワーク・ライセンスの設定

ネットワーク・ライセンスの設定を次の例に示します。

```
./licenseactivator LSHOST= COMMUTE_MAX_LIFE=7
```

activation.properties ファイル経由でのライセンス交付

`activation.properties` ファイルを使用した製品へのライセンス交付を次の例に示します。

```
./licenseactivator -f activation.properties
```

`activation.properties` ファイルのテンプレートは、`<installation directory>/Resources/Activation` に用意されています。

注: 端末ウィンドウに `./licenseactivator --help` と入力して、`licenseactivator` オプションの全リストを表示します。

ライセンス・ファイル

製品にライセンスを許可すると、製品のインストール・ディレクトリーに `lserverc` という名前のファイルが作成されます。このファイルのコピーをエンド・ユーザーの各コンピューターに対して保持しておくことができます。ライセンス・ファイルは、それが作成されたコンピューターでのみ機能しますが、そのコピーがあると、製品のアンインストールや再インストールが必要になったときに役立ちます。再インストール後に、`lserverc` ファイルを製品のインストール・ディレクトリーにコピーし直すことができます。これにより、製品のライセンスをあらためて取得する作業が省けます。

サービスとサポート

Micro Software のライセンス契約書に記載されているように、サイトでライセンス交付を受けた製品バージョンごとに、窓口となる技術担当者が、お客様のサイトで 1 人指定されます。この担当者が、お客様の組織内のユーザーに対して、製品に関する支援とオプションを提供することになります。IBM 会社は、窓

口となる技術担当者の名前を記録し、IBM 会社 技術サポートを通じて技術的な支援を提供します。ソフトウェアに関する質問は指定された技術担当者にお問い合わせよう、エンド・ユーザーに通知してください。

IBM 会社 技術サポートに連絡するには、<http://www.ibm.com/support> にアクセスして事象を送信してください。IBM 会社 技術サポートに登録していない場合は、登録する必要があります。

IBM 会社は、IBM 会社 製品の公開トレーニング・セミナーを定期的を開催しています。オンサイトでトレーニングを受講することもできます。トレーニング・セミナーの詳細については、<http://www.ibm.com/training/spss> にアクセスしてください。

